

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			中庭、2階も利用でき、定員人数に対しては十分だと思う。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			定員人数に対してスタッフの数的には十分。しかし、男児利用の多さに比べ、男性スタッフが少ない。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか			○	肢体不自由児や体の動きの調節が難しい利用児に対しては、段差が多い。玄関での靴の履き替えは椅子を用意して対応している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			人事考課にて個々に目標設定と振り返りをしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			アンケート結果から改善点を次の年度の事業計画に反映している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		年に2回法人全体の第三者委員会が実施されている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			児童グループでの事例検討会を実施している。法人内や外部研修等、研修の機会が多く特にサボ研へは、積極的に参加するようにしている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			前期、後期の年2回、個別面談を行い、家庭での様子や事業所での様子など話し合う機会を設けている。また、支援計画を作成する前に保護者から支援計画に対する要望を伺い、計画に盛り込んでいる。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		法人内共通フェイスシートを使用。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			室内ではおやつ作りや制作、戸外活動では電車にのったり、畑仕事やドラムサークル、ダンス教室など、法人内事業所と連携をして、バラエティーに富んだプログラムを組んでいる。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか		○		一人一人の過ごし方、課題など、細かな点での支援を前もって情報共有として話し合うことはもっと工夫していきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			個別対応の必要性の高い利用児が多い中でも、窮屈にならないよう配慮し集団のプログラムを組み、参加しやすくなるよう活動を工夫するなどしている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			利用児の最近の様子や、当日考えられる様子などを話し合い、対処の仕方、対応するスタッフなど、必ず確認している。また、活動中でもスタッフ間で情報をやりとりし、臨機応変に対応している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			日誌や記録を記入しながら気づいたことを話しあっている。また、雑談を通して学校からの様子や家庭の話など、支援、活動以外の細かな点の情報も共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			スタッフによって記録するポイントが違っている。記録を読み返し、補足したり書くポイントを確認することはある。

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	○		休日や長期休みを中心に公共の機関を利用し出掛けたり、レストランで食事やコンビニへお買い物等地域を意識した活動を取り入れている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		主に計画作成担当者が出席しているが、必要に応じてふさわしい物が参加している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○		FAXを使って1週間の利用者名簿を学校へ送っている。お迎え時に先生から引き継ぎがある。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○		服薬の必要がある利用児には、指示書を提出してもらっている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		○	法人内事業所とは密に連携がとれているが、市内の児発事業所との連携がない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○		法人内事業所とは積極的に情報の共有が出来ている。活動プログラムの中に仕事体験デイを取り入れ、卒業前から事業所間で情報を共有している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		法人内事業所とは密に連携が取れているが、他法人との連携はない。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	子ども同志の活動機会はないが、事例検討会を通して先生方と共通のテーマで話し合っている。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	○		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		利用時の送迎で保護者と直接お話ししたり、連絡帳を通して情報のやり取りをしている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○		事例検討会を開催し、保護者も一緒に参加できるように案内を出し、お誘いしている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		個別面談や保護者会を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		連絡帳を通しての相談や電話での相談など、その都度丁寧を心掛け応じている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		保護者会や事例検討会では、積極的に保護者の方へお誘いをして、きっかけ作りをしている。

	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			苦情や相談があった場合には、迅速に対応と対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月、活動の様子を通信等で発信している。
	35	個人情報に十分注意しているか	○			注意して扱っている。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			子ども一人一人の意思伝達手段尊重し、自己決定が出来るよう配慮している。 保護者へは、連絡の取りやすい方法を選んでもらっている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			法人としてイベントを多く開催しており、地域の方と関わる機会となっている。 ポスターを貼る等、事業所を通して案内している。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			保護者会などを通してお話しはしているが、もっと詳しく説明する必要あり。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			法人の避難訓練にスタッフのみ参加。毎月第4週目の各曜日に、利用児参加の避難訓練を計画している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			スタッフが研修に参加したり、その報告書を回覧して虐待に対する意識を向けられるようにしている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			身体拘束は実際にはまだないが、保護者から要望があった時には、支援計画に記載していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			発作が起きた場合、服薬の必要があるため医師からの指示書を提出してもらっている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			